

那須塩原市議会 「敬清会」 行政視察報告書



視察期間：令和元年7月16日（火）～7月18日（木）

- I 視察日：7月16日（火）
視察地：青森県八戸市
内 容：八戸まちなか広場（マチニワ）について

- II 視察日：7月17日（水）
視察地：青森県十和田市
内 容：Arts Towadaについて
視察地：青森県青森市
内 容：青森県立美術館について

- III 視察日：7月18日（木）
視察地：北海道函館市
内 容：南北海道定住自立圏構想について
視察地：北海道七飯町
内 容：道の駅「なないろ・ななえ」について

参加議員：相馬 義一 玉野 宏 大野 恭男 平山 武

青森県八戸市

・「八戸まちなか広場（まちにわ）」について

視察地 八戸まちなか広場 八戸ポータルミュージアム

視察日 令和元年 7 月 16 日

報告者 平山 武

八戸市は人口 228,622 人、平成 29 年 1 月 1 日全国 48 番目となる中核市に移行し、『ひと・産業・文化が輝く北の創造都市』の実現を目指し、現在第 6 次八戸市総合計画に掲げる 5 つのまちづくり戦略に取り組んでいます。

八戸市の中心市街地は、八戸城を中心に形成された城下町であり、歴史と文化の息つく街として古くから活況を呈する街並みが発達してきました。しかし全国的に、中心市街地の空洞化や商業機能の低下が懸念される中、八戸市も例外ではなく、中心市街地の中核施設として、市民交流、観光 PR、各種イベント開催に対応できる複合的な施設を整備しようとの機運が高まりました。平成 18 年中心市街地地域観光交流施設基本構想を作成し、市民の声、専門家のアドバイスをもとに検討会議を重ねて基本計画を策定しました。

【はっちの目的】

新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指します。

【建物のコンセプト】

「はっち」は八角形の中庭を中心に、八戸の中心街の特徴である路地、横町のような回廊や、広場のような空間があり、八戸の魅力を再発見しながら、各所で観覧や活動、ショッピングや飲食、休憩を楽しめる立体的なまちとして造られています。

【展示のコンセプト】

八戸の見どころや魅力を分かりやすく紹介し、ここから各フィールドに誘うポータル(玄関口)として位置付けた上で、その展示作品等は市民作家や市民学芸員により制作され、八戸の資源とともに、八戸の誇りを伝えています。

【事業のコンセプト】

「地域の資源を大事に思いながら新しい魅力を創り出すところ」

八戸には人、物、食、文化などの財産がたくさんあります。それらを地域の誇りとして改めて見つめ直し、時には新しいものを取り入れながら育み、新たな魅力を創り出し活性化することで、市民の地域への更なる誇りにつなげます。

【はっちの事業】

- 1 開所場づくり (誰でも気軽に立ち寄れる空間づくり)
- 2 貸館事業 (シアター・和室・ギャラリー等の貸し館)
- 3 自主事業
 - ①中心市街地の賑わい創出事業
 - ②文化芸術の振興

③ものづくりの振興

④観光振興

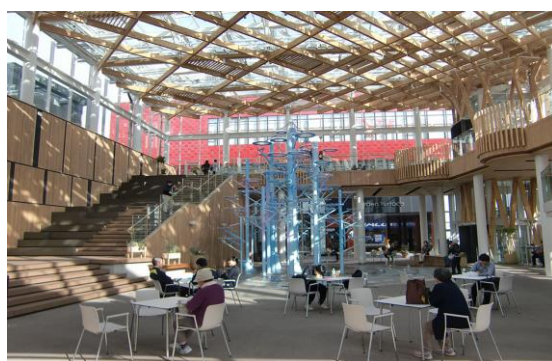
平成 23 年 2 月 11 日待望のく八戸ポータルミュージアム「はっち」>(総工費 40 億円)が開館しました。

運営は館長・副館長・企画運営グループ 9 名・総務経営グループ 13 名計 24 名で行い、業務委託、テナント 10 店舗、市民参加の自主事業等を活発に実施している。来館者は毎年 100 万人超あり、延べ 800 万人を超えています。

そのような中、第 2 期八戸市中心市街地活性化基本計画により、平成 30 年 7 月 21 日「はっち」向かいに中心施設となる『八戸まちなか広場マチニワ』(総工費 17 億円)がオープンしました。

「マチニワ」は街なかの庭のような役割を担うことから、解放感と冬期間の利便性の両立を図るとともに、「はっち」や周囲の建物と花小路をつなげ、文化芸術が融合した創作活動を楽しんだり、市民や観光客とのふれあいの場所となったり、また災害の時には一時的避難場所にもなっています。まさに「マチニワ」が核となり、各種イベントや魅力ある企画により着実に中心市街地の活性がなされていくと大いに期待されます。

本市も黒磯駅前にまちなか交流センターがオープンしました。中心市街地の活性化に繋がることを期待して止みません。



青森県十和田市

・「Arts Towada」「十和田市現代美術館」「青森県立美術館」について

視察地 十和田市役所 十和田市現代美術館 青森県立美術館

視察日 令和元年7月17日

報告者 玉野 宏

議会事務局	主査	岩城	圭祐氏
農林商工部 商工観光課 観光係	主事	滝沢	祐希氏
農林商工部 商工観光課 観光係	係長	小泉	和也氏
十和田市現代美術館	学芸員	見留	さやか氏から説明を受ける。

十和田市の商店街も人口減少、地方経済の苦境のシャッター通りとなっていた。この商店街に直交する官庁街通りは、アーツトワダのシンボルロードとなっており、景観は一変する。この通り全体を美術館と見立て、現代美術館はアート作品、アートプログラムの3つの要素を組み合わせたまちづくりの為の指針となっている。中心となっている現代美術館は来年10周年を迎えることになり、オープン10周年イベントの準備中であると聞いた。

十和田市は市町村魅力度ランキング61位でありアーツトワダの運営理念を将来都市像として「感動、創造都市、人が輝き、自然が輝き、まちの個性が輝く理想」としてかかげ、自然、心、暮らし、仕事、市民「感動・創造都市」を目指しているとのこと。基本理念「アートの感動を共有するまち十和田」を世界に発信すべく南條アンドアソシエイツ（NアンドA）を指定管理者として運営している国内外で注目を集める新進アーティスト毛利悠子の世界初の美術館での個展開催。草間彌生氏デザインの屋外作品、安藤忠雄氏交流は指定管理者の提案であったと説明を受けた。新築された市庁舎から現代美術館まで徒歩で移動。点から線、面に広がるアート空間を体験した。

同美術館では上記十和田現代美術館学芸員見留さやか氏の案内で作品が展示されるまでのプロセス、十和田市とNアンドAの関係、小野ようこ氏の作品についてお話を伺えた。屋上から見られる作品がありますとそこからは奈良美智氏の美術館壁面に描かれた人物像画が見られた。「広報を市と一緒にやっているが取材を受けることが多くなっており来館者は累計161万になりました」とアートとまちづくりが一体となっていて動き続けていることが感じられ、那須塩原市のアートでの企画に大いに参考になるものと思う。



[青森県立美術館]について

三内丸山遺跡と隣接するこの美術館は、丸山縄文遺跡の発掘現場から着想を得て設計され地面は幾何学的にトレンチのように切り込まれている。設計は青木淳氏、工事費約110億円、開館は2006年7月13日。訪問日は7月17日（水）でしたが多くの来館者が見られた。館内移動のエレベーターが混雑し階段を利用する人も出ていた。

青森県は、那須塩原市青木にオープンされたエヌズヤードの奈良美智氏生誕の県でもあり、同氏の企画展が開催中で38点の作品が展示されていたことも来館者を招いていたものと思われる。奈良氏の代表作「あおもり犬」はアレコホールと呼ばれる展示室に設置されて、撮影が許可されているので立ち止まる人が見られた。

八戸市と十和田市現代美術館、青森県立美術館の訪問は、黒磯駅周辺整備、まちなか交流センター「くるる」の運営、駅前図書館運営、アートを活かしたまちづくりに生かす為でありました。いずれの地の人にも今後のまちづくり、人づくりに責任と温かさを感じられた。フランス人がときめいた日本の美術館は全館訪れてみたいと感じた。

北海道函館市

・「南北海道定住自立圏構想」について

視察地 函館市役所

視察日 令和元年 7 月 18 日

報告者 相馬 義一

函館市を中心に 2 市 1 6 町、

北渡島檜山地区（長万部町・今金町・せなた町・八雲町）

南檜山地区（乙部町・厚沢部町・江差町・奥尻町・上野国町）

南渡島地区（森町・鹿部町・七飯町・北斗市・木古内町・知内町・福島町・松前町・函館市）

は、これまで経済活動や福祉教育等の交流や買い物を始めとした日常生活での結びつき、観光や医療における連携等行政区を越えた多くの分野で深い関係を築いている地域であります。

総面積は 6,568k m²と広く、約半分が山林で漁業・農業・観光業を中心でさかえた地域です。総人口は約 44 万人だが、減少傾向にあり高齢化率 32.9%と高く 2040 年までに 15 万 8000 人減少すると予想されています。今後地域コミュニティの維持・地域経済の衰退が大きな課題となっている地域です。

このような中、平成 24 年 11 月に 18 市町の全首長による南北海道市町連絡協議会の協議のなかで、複数の首長からドクターヘリ導入の要望があがり、翌年道南ドクターヘリ導入調査検討会においてドクターヘリ導入を確認しました。

これを機に各市町から定住自立圏の形成についても提案・了承され南北海道定住自立圏共生ビジョン策定され取り組まれています。

南北海道定住自立圏共生ビジョンの協定項目は 3 分野 6 項目 13 事業です。

①生活機能の強化に係る政策分野

ア 広域医療体制等の充実

ドクターヘリの導入、函館市夜間急病センターの運営

脳疾患緊急搬送体制の運営支援、医療情報共有化の推進

イ 広域観光の推進

プロモーション活動の実施、滞在型観光メニューの共同開発

②結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

ア 地域公共交通…第三セクター鉄道の運行支援、生活バス路線の維持・確保

イ 基幹道路等ネットワーク整備の促進・道路整備期成会活動の促進

ウ 国際化の促進…留学生受け入れ体制の充実、外国人観光客誘客による地域国際化

③圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

ア 人材育成等…職員研修に係る情報提供及び合同研修の実施、高等教育機関との連携による地域マネジメント能力の向上

以上が第一次定住自立圏共生ビジョンの概要です。

北海道七飯町

・道の駅「なないろななえ」について

視察地 道の駅 なないろななえ

視察日 令和元年 7 月 18 日

報告者 大野 恭男

道の駅「なないろななえ」は、北海道七飯町に道内 121 番目の道の駅として平成 30 年 3 月にオープンした道の駅です。函館駅から車で約 40 分、新函館北斗駅から車で約 10 分、大沼公園から車で約 20 分の位置にあり、函館駅から札幌方面へ向かう途中で最初の道の駅で、国道 5 号線沿いにあることから大変賑っています。駐車スペースも広く大型車 23 台、普通車 148 台、身障者用 8 台を完備され、自転車の駐輪場も用意されています。また、24 時間使えるトイレの数は多く、多目的トイレ、パウダールーム、子供トイレ、授乳室、おむつ替え室もあり利用者にやさしい設備が整っています。店内にはキッズスペースも用意されており、サークル型のカラフルなクッション仕様で、子供同士でも安全に楽しく遊ぶことが出来るよう配慮されています。絵本棚にはたくさんの本が用意されていて、自由に読むことができます。「西洋式農法発祥の地」、「男爵芋誕生」、日本で初めてリンゴが栽培された地」等のテーマごとにパネルが並ぶコーナーもあり、七飯町のミニ知識を遊びながら楽しく学ぶこともできます。

おすすめグルメでは、ここでしか食せない「小原のガラナソフト」、「山川塾王コロッケ」、「マテリアクレープ」、「ききりんごセット」等があり、中でも利き酒ならぬ「ききりんご」というのが興味を惹かれました。面白い発想だと感じました。

那須塩原ならではの発想で、観光客や市民の方に愛される道の駅を目指していただきたい。行政頼みではなく、自助努力が必要だと感じました。

「なないろななえ」のコンセプトは以下のとおりです。

- ・水源・・・水資源に恵まれ、豊かで良好な水質・量を誇る。
- ・酪農・・・酪農が盛んで牛乳や乳製品を加工したチーズ等を生産。
- ・癒し・・・雄大な景色、牧場、夜景。訪れた人の心を癒す景色。
- ・赤松並木・・・日本の道百選・歴史国道に選定されている並木道。
- ・農業・・・西洋式の大型農機具を用いた農法が日本で初めて行われた。
- ・真心・・・七飯の人々の温かさやおもてなしの心。
- ・土壌・・・良質な土壌に恵まれた七飯町は作物が育つのにとっても良い環境。

